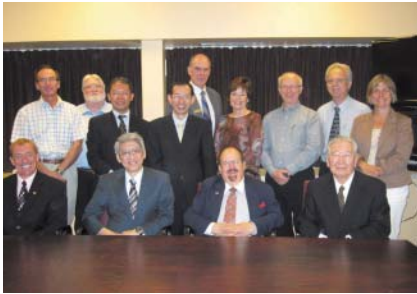


カナダ・米国における口腔医学の現状視察

総合歯科学講座 高齢者歯科学分野 准教授 内藤 徹



カナダ・ダルハウジー大学にて:
写真の全員にインタビューをさせていただきました

9月19日から10月1日までの13日間、田中理事長、北村大学長、佐藤教授と私の4名で、カナダ・米国の口腔医学に関する教育・意識、歯学教育のカリキュラムの現状などを調査するための視察に行き参りました。

最初に訪れたカナダ東部ハリファックスのダルハウジー大学では、大学訪問の前日から前学部長のCohen名誉教授のご自宅に招待され、手ずから用意して下さった和食を頂きながら、どうやって口腔医学のコンセプトが生まれ、医科との境界領域をどのように考えるべきか、半日間のディスカッションを行いました。Cohen教授はたいへん博識な親道家で、ご自身の著書「The Child with Multiple Birth Defects」に「講演舞臺 (Cohen Michael)」という自筆の漢字のサインをして田中理事長に贈呈され

ました。

次に訪れたケンタッキー大学では、米国で実際に「Oral Physician Program」(口腔医養成プログラム)を提唱・実施されたNash教授らと、熱い議論を交わしました。ダルハウジー大学およびケンタッキー大学では、田中理事長自ら「From Dentistry to Oral Medicine as a Specialty of Medicine」と題した講演をされ、本学が中心となって模索している口腔医学の方向性について、各大学の多数の教員の先生方と意見を交換しました。

ボストンでは、タフツ大学の平山先生、ボストン大学の蒲池先生にそれぞれの所属する大学を案内していただきました。また、ボストン美術館の近くでは、田中理事長がハーバード大学留学中に住まっていたというアパートメントを訪問し、50年近く前の若き日の思い出に浸られていました。そして最後の訪問地ロサンゼルスでは、南カリフォルニア大学と大学間提携の覚書を交わすことができ、今後、活発な学生交流が開始するものと期待されます。

今回の視察では、5大学を訪問し、インタビューをさせていただいた教授は30名を超えました。カナダ・米国ともに、公的保険ではほとんど歯科治療がカバーされておらず、社会保障制度や医療関連法規は異なりますが、より良い医療や歯学教育を提供しようとする姿勢は

世界共通でした。カリキュラムの自由度が非常に高く、歯学部在学中に2~4年間の追加の教育で医師免許を取得できるプログラムがあるなど、日本の歯学教育とはずいぶん異なっていることが実感されました。いずれの大学も、高い診療レベルと充実した教育プログラム、病院管理システムを保有し、それぞれの大学のミッションをアピールしていました。入学試験の方法が日本とは異なるものの、いずれの大学も入学定員の10倍を超える志願者を集め、全国から極めて優秀な人材を集める環境にあることがわかりました。学生の多くは、自らローンを組んで年間数百万円の学費を都合しており、卒業後はすぐに臨床に出られるように、まさに競うようにして臨床実習に取り組んでいる姿勢が強く印象に残っています。

視察にあたり、学内・学外の多くの方に大変なご配慮を賜りました。関係者各位に深く感謝いたします。



米国・南カリフォルニア大学:
田中理事長とSadan学部長の覚書の調印

文部科学省戦略的大学連携支援事業 口腔医学の学問体系の確立と医学・歯学教育体制の再考

FDワークショップ及びSD研修を開催

11月13日、神奈川歯科大学横浜研修センターにおいて、平成21年度FDワークショップが開催されました。

当日は連携8大学から30名の参加があり、講演、グループワーク、全体発表会等が行われ、活発な議論が交わされました。

また、11月20日、21日の2日間、神奈川歯科大学において、戦略的
大学連携支援事業平成21年度第2回SD研修が開催されました。

研修は、各連携校の教学・管理部門所属の中核的な職員を中心に26名の参加があり、初日には桜美林大学・大学院大学アドミニストレーション研究科船戸高樹教授により『ベテランからプロフェッショナルへー大学改革、職員の役割-』という講演タイトルで行われた基調講演の様様を連携大学にTV配信し、合わせて106名が参加しました。



FDワークショップの様様

口腔医学シンポジウムを開催

1月9日、福岡県歯科医師会館視聴覚室において、戦略的
大学連携支援事業『口腔医学』シンポジウムが開催されました。

『「口腔と全身の健康」-口腔医学の礎-』というテーマで、北村大学長、豊福明氏(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授)、角保徳氏(国立長寿医療センター病院先端医療部医長)、中山恵美子氏(福岡市保健福祉局健康福祉のまちづくり部)、時枝正信氏(読売新聞西部本社編集委員)の講演の後、田中理事長の司会により、講演者による討論が行われました。全国から歯学・医学の関係者ら123名が参加し、活発な意見交換の場となりました。

